

第二回

平成二十六年度

宇都宮短期大学附属中学校

入 学 試 験 問 題  
国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が三問で、問題文は一ページから六ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があつたら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があつたら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

## 〔一〕

次の、言葉に関するそれぞれの問い合わせに答えなさい。

問い合わせ1 次の——線部の漢字の読み方が他とちがうものを、下のア～エから選んで、記号で答えなさい。

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| (1) 「ア」 幼子 | (1) 「イ」 幼少 | (1) 「ウ」 幼虫 | (1) 「エ」 幼魚 |
| (2) 「ア」 貿易 | (2) 「イ」 展望 | (2) 「ウ」 包囲 | (2) 「エ」 防災 |
| (3) 「ア」 子孫 | (3) 「イ」 損失 | (3) 「ウ」 保存 | (3) 「エ」 農村 |

問い合わせ2 次の——線部を漢字に直しなさい。

(1) 年賀状をス|る。

(2) 今日にイタ|る。

(3) ヒタイ|にあせをかく。

(4) オーケストラのシキシャ|に会う。

(5) 大きなリエキ|をあげる。

問い合わせ3 次の慣用句の□|にあてはまる言葉をあとから選んで、漢字に直して書きなさい。

(1) (1) □|で笑う。 (相手を見下して笑う)

- (2) □|が下がる。 (尊敬の念がわく)

「 ハラ ミミ アタマ ハナ 」

問い合わせ4 次の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

- (1) 徳

- (2) 筋

問い合わせ5 次の——線部の主語を——線部ア～エから選んで、記号で答えなさい。

- (1) ア 朝、イ 彼らは、ウ エ 早く、エ 登校した。

- (2) ア 私たちの、イ 父も、ウ 市役所で、エ 働く、エ 公務員だ。

〔二〕 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

宇宙では、①地球以外は、真っ暗の死の世界です。深くて吸い込まれそうになる怖さ。冷たく凍るような真っ暗闇。

本当ににもない、底のない闇の暗さに対するがために、光に満ち満ちた地球の生命感が浮き立つかもしません。しかも、その間に、薄くて華奢な大気のベールがあるんです。その薄いところにしか命はない。その（A）で貴重なベールで生死がせめぎあっている。その対比が（B）な印象を増すのだと思います。【I】

日本では、生死がどこに存在するかを感じることはほとんどない。ところが宇宙では「感じる」とができる。そして、死を意識することで、強烈な□|を実感できる。

それだけではないのです。地球を見ていると、六十五億人の人の生活がなぜか伝わってくるんです。見えるわけでもちろんないので、自分の足元を通過している大陸、島、森を見ながら、どういう人が暮らしているのかなど考えてしまう。そして、この地球は命の歴史をすべて見守ってきた存在だと確信できる。人間にとどまらず、動物が

走り、植物が呼吸しているのがわかる。命のうず巻きと交渉が聴こえる。光と闇。そして水の天体で強烈にその存在を主張している生命たち。

同じ宇宙からでも、船内からと船外からとでは、圧倒的に見えるものが違いました。【Ⅱ】宇宙船から見ている景色は、例えるなら新幹線の中から見る富士山のようなもの。ひとつの景色でしかないんです。（C）だと感じるし、なつかしい地形を見ると感激もする。でも、手をのばせば届くような現実感はない。

しかし船外出ると、なによりもまずその存在感に圧倒されてしまう。「目で見る」とと「触感で感じる」くらいの違いがある。同時に、生死のせめぎあいの世界からどうして自分が外れているのかを体が納得していないようなのです。人間は地球でしか暮らせないはずなのに、この地球という星でしか命は存在できないはずなのに、地球の一部である自分がなぜここにいるのか。この絶対的な孤独。ここで地球を見ている自分はなにものか？自分の身体の存在はなく、視点だけがそこにあるという感覺はなにか？②絶対的な孤独、地球という奇跡、そしてそれを見つめる自分。

（注2）お能が好きなのですが、室町時代の役者でもある世阿弥の「離見の見」という、『自分の姿を離れたところから客観的に見るような視点』、これがあてはまるような気がしました。舞う自分のことばかりに心をうばわれず、第三者である観客から観たときの視点を忘れないようにという、能楽論書『花鏡』の中の言葉です。ぼくは、空間的なものだけでなく、時間的な流れもふくめたものとしてとらえています。

自分が生まれる何億年も前から命の道すじがそこで絶え間なく営まれている。そこでしか存在しないものを、一時的に時空をこえてなぜか見ていている。

これを（D）に感じたのは、九日目の三回目の船外活動の時でした。ステーションの上に飛び出ている太陽電池パネルの一番上に立つて作業をしていて、ふと下を見下ろしたときのことです。宇宙ステーションが眼下に見え、地球がそのまた下に見え、スペースシャトルはステーションのかたわらに斜め下にあるような状態です。【Ⅲ】地球の圧倒的な存在感と、その地球という海を悠々とわたっていく船。地球の存在感にも感動しましたが、これだけのものを作つて持つてきてしまう人間の英知にも心をゆさぶられました。

なにしろ周りは死の世界なんです。命を受け付けない世界が広がっている。ぼくたちは地球でしか生きられない生物。それなのにシャトルは地球のあの薄いベルからここまでぼくたちを運んできてくれた。【Ⅳ】地球の周りを回り、宇宙で働いている。よく造ったなあ、よく来たなあ。コイツのおかげで、地球は近かつたなあ。連れてきてくれて、どうもありがとう。

本当に優れた、世阿弥のような人はぼくが宇宙で感じたことを地上で感じるのだと思います。砂漠を四十日間さまよつて得たことだつたり、お釈迦さまが菩提樹の下で悟りをひらいたりすることも似ているのでしょうか。もしかしたら比叡山延暦寺の千日回峰行のような修行は、⑥同じものに到達するためによるのでしょうか。

たとえる対象が大きさでずうずうしいかもしませんが、ぼくのような凡人には、やつぱりそこに行かないといわらない。行かないと言えないものがある。⑦「山頂を谷に持つてすることはできない」というけれど、そこに行くからこそ見えるものというものは絶対に存在します。ぼくは、それを見ました。

（野口聰一「オンラインワーキング」—ずっと宇宙に行きたかった—から）

（注1）華奢（せんざい）（注2）能（のう）日本の伝統芸能の一つ。

（注3）ステーション（国際宇宙ステーション）。筆者は二〇〇一年、この組み立ての任務のために宇宙へ行った。

(注4) 千日回峰行＝七年間、一千日をかけて行われる修行。最も苦しい修行の一つと言われる。

(注5) 凡人＝並の人。

問い合わせ① 地球を言いかえて表現している言葉を本文中から探し、四字と十六字で書きぬきなさい。

問い合わせ② ( ) A～Dに入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次のの中から選んで、記号で答えなさい。

- |   |        |   |     |   |     |   |    |
|---|--------|---|-----|---|-----|---|----|
| ア | 【A】きれい | B | 痛切  | C | 可憐  | D | 強烈 |
| イ | 【A】きれい | B | 可憐  | C | 痛切  | D | 強烈 |
| ウ | 【A】可憐  | B | きれい | C | 強烈  | D | 痛切 |
| エ | 【A】可憐  | B | 強烈  | C | きれい | D | 痛切 |

問い合わせ③ 次の文は【I】～【IV】のどこに入りますか。I～IVの記号で答えなさい。

地球という海原を、ステーションという大型帆船の甲板の先に立つてながめている。

問い合わせ④ ( ) にあてはまる最も適当な言葉を、漢字一字で答えなさい。

問い合わせ⑤ (2) 絶対的な孤独、とはどのようなことを言うのですか。それを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から十字で書きぬきなさい。

地球でしか生きられないはずの人間である自分が、なぜ( )にいるのかという感覚

問い合わせ⑥ (3) 「離見の見」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「離見の見」とありますが、「世阿弥」は『花鏡』の中で、どのようなことが大切だと述べていますか。次の空

らんにあてはまる言葉を、本文中からアは二字、イは四字で書きぬきなさい。

(2) ア ( ) の視点で、イ ( ) を客観的にみるとこと。

問い合わせ⑦ (4) また、「筆者」は、自分のどのような体験を「世阿弥」の「離見の見」と同じだと述べていますか。次の空

らんにあてはまる言葉を、本文中からそれぞれ二字で書きぬきなさい。

ア ( ) から イ ( ) を見た体験

問い合わせ⑧ (5) 客觀の対義語として適當なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 静觀 イ 參觀 ウ 樂觀 ハ 主觀

(2) “自分の姿を離れたところから客觀的に見るような視点”、これがあてはまるような気がしました。とあります  
が、「何」に“自分の姿を離れたところから客觀的に見るような視点”が“あてはまる”というのですか。  
「何」に相当する言葉を本文中から二十七字で探し、最初の五字を書きぬきなさい。(、や。などの記号も字数に  
数える。)

問い合わせ⑨ (5) 客觀の対義語として適當なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 静觀 イ 參觀 ウ 樂觀 ハ 主觀

**問い合わせ** ⑥ 同じものに到達するところがありますが、「同じもの」とはどのようなものですか。それを説明した次の文の空らん

にあてはまる言葉を、本文中から二字で書きぬきなさい。

命の道すじの営みを  をこえて見るような境地

**問い合わせ** ⑦ 「山頂を谷に持つてくる」とはできない」とあります。その意味として最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 体験しないと理解できないことが間違いなくあるのです。
- イ 結論にたどりつくまでの努力の中にこそ喜びがあるのです。
- ウ 結果が出てからないと気づけない大事な事柄は、絶対にあるのです。
- エ できることに悩むより行動することによってこそ新たな発見があるのであります。

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

父親の転勤で何度も引っ越しをしてきた「わたし」は友だちをつくりないと決めている。いつも不機嫌で、無愛想な「わたし」に周囲はいらだっていた。そのような時、笑って話しかけてきたのが「エツちゃん」だった。

「いいなあ、またどこかに行っちゃうんだよね、いいなあ、いいなあ」

何度も言われた。最初はヘンなことを言う子だと思っていた。あんたなんか友だちと別れる悲しさも知らないくせに、と言つてやりたかった。

① エツちゃんと初めて会ったとき、ほんとうは、気が合いそうだとはすぐに思った。くわしく自己紹介をしたわけではなくても、友だちになれるかどうかは、知り合ったときの第一印象がすごく大きい。荒っぽい同級生の中ではちよつとおとなしそうなエツちゃんの雰囲気は、わたしにはぴったりだった。

宮澤賢治が好きだと知ったときには、ますますうれしくなった。ウチには『風の又三郎』の本もある。図書室に置いてあるのより高学年向けの本だ。読ませてあげたら喜ぶだろうな、とも思ったのだ。

でも、友だちはつくらないという決意は消えていない。揺らいでもいい。

仲良くなつてはいけないと思つたから、② エツちゃんにはことさらそ分けなく接した。K町では観られないアニメ番組の話をわざとして、「そんなのも知らないの?」と冷ややかに笑つたこともあるし、話しかけられても無視をつづけて、最後に「うるさいなあ」とはねつけたこともある。

エツちゃんは一度も怒らなかつた。みんながわたしのまわりから去つてしまつたあとも、「いいなあ、また遠くに行くのつて、いいなあ」とうらやんで、「わたしも行きたいなあ……」とつづけた。

九月の半ばを過ぎたあの日もそうだった。

一人で帰りたかったのに、エツちゃんは「一緒に帰ろう」と言つてついてきた。歩きながら、またいつものように転校生のわたしをしきりにうらやんだ。

「じゃあ、転校させてもらえばいいじゃない」

そんなの無理だとわかっていて、「お父さんに頼んでみれば?」と突き放すように言つた。

すると、エツちゃんは  微笑んで、首を横に振つた。

「ウチはお父さんいないから」

「いない、つて？」

「わたしが小学校に入る前に死んじやつた」  
さすがに気まずくなつてうつむくと、エツちゃんは逆にわたしを励ますように、「でも、お兄ちゃんが漁に出てるから」と言つた。

「……だつたら、お兄ちゃんに言えば？」

わたしはほんとうに **(2)** だつたのだ。

エツちゃんは、また寂しそうに笑つた。

「お兄ちゃん、まだ十六だから、伯父さんに言わないとダメかなあ」

「十六歳で働くの？」

「うん、お兄ちゃんは高校に行つてないの。中学を卒業したあと、お父さんの代わりに伯父さんの船に乗つてるの」

「お父さんも漁師さんだつたの？」

「そう。海で死んじやつたけど」

(注2) 時化の日に漁に出で、船が沈んでしまつたのだという。お父さんが亡くなつたあとは、お母さんとお兄ちゃんとエツちゃんの家族三人、伯父さんの家に世話になつてゐる。

「船の借金も伯父さんが払つてくれたの」

「……いい伯父さんだね」

小学四年生には、そんなことしか言えないと。

エツちゃんは、うん、と小さくうなずいてから、ぱつりと付け加えた。

「三人ともイソウロウだから、肩身が狭いんだけどね」

遠くに行きたい——というのは、**(4)** そういう事情があつたからかもしれない。

わたしは「ふーん」とひらべつた声で応え、いかにも面倒くさそうに顎を振つてうなづくだけだった。嫌な子だ、ほんとうに。でも、嫌な子をつづけないと、どうしていいかわからなかつた。

「お父さんのお墓、あそこにあるの。いつもあそこから、お兄ちゃんの乗つてる船を、守つてくれてるの」

港を見下ろす墓地を指差したエツちゃんは、「海が時化たときは、わたしもお父さんと一緒に<sup>いの</sup>祈りするんだよ」とつづけた。

夏休みの台風の日に墓地に立つていた人影は、エツちゃんだつたのかもしれない。ふと思つたけど、それを確かめることはできなかつた。気まずくて、悲しくて、これ以上嫌な子をつづけるのがキツくなつて、黙つて駆けだした。

(重松清「サンマの煙」から)

(注1) 宮澤賢治『風の又三郎』などの作品がある。

(注2) 時化＝海が荒れること。

問い合わせ1 ① エツちゃんと初めて会つたとき、ほんとうは、気が合いそだつた。とあります。それはどうしてですか。その理由を本文中から探し、解答らんの「<sup>い</sup>だつたから」に続くように十字内で書きぬきなさい。

**問い合わせ** (2) エツちゃんにはことさらそつけなく接した。とありますが、その理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から書きぬきなさい。

仲良くなつてしまふと、  も大きくなつてしまふから

**問い合わせ** (1)

にあてはまる言葉として、最も適當なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 寂しそうに

イ うれしそうに

ウ 満足そうに

エ 面倒くさそうに

**問い合わせ** (3) エツちゃんは逆にわたしを励ますように、とあります、なぜ「エツちゃん」は「わたし」を励まそうとしたのですか。その理由として適當なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 自分に関心を持つてくれた「わたし」をさらに引きつけたいと思つたから

イ 「お父さん」が死んでいることを知つた「わたし」に気をつかわせたくなかつたから

ウ 「お父さん」が死んだことをむりやり聞き出した「わたし」に反省してもらいたかつたから

エ 「お父さん」が死んだ事情も知らずに家族の自慢じまんをしてきた「わたし」を気の毒に思つたから

**問い合わせ** (2) にあてはまる言葉を、本文中から三字で書きぬきなさい。

**問い合わせ** (4) そういう事情とありますが、それを具体的に説明している三十字以上の一文を本文中から探し、最初の五字を書きぬきなさい。(、や。などの記号も字数に数える。)

**問い合わせ** (5) ひらべつたい声とは、( )ではどのような声のことですか。適當なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア ふざけているような声

イ 同情したふりをしているような声

ウ 非難しているような声

エ 関心のないふりをしているような声

**問い合わせ** (6) 黙つて駆けだした。とありますが、この時の「わたし」の説明として最も適當なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 「エツちゃん」の暗い話をこれ以上聞きたくないと拒否きよひしている。

イ 勝手についてきた「エツちゃん」の話を聞くのが面倒くさくなつていてる。

ウ 思いもよらない「エツちゃん」の身の上話にいたたまれなくなつていてる。

エ 気の毒な「エツちゃん」を、今まで助けてあげられなかつたことを後悔こうかいしている。